



AREホールディングス株式会社 個人投資家向け会社説明会

東証プライム市場 証券コード:5857

2023.11.22

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- I. 会社概要
- II. 貴金属事業
- III. 環境保全事業
- IV. 成長戦略

ご参考 2024年3月期第2四半期決算概要

- I. 会社概要
- II. 貴金属事業
- III. 環境保全事業
- IV. 成長戦略



東京本社

※ご参考 2024年3月期第2四半期決算概要

The image shows the ARE logo, which consists of the letters 'ARE' in a bold, white, sans-serif font. The letter 'R' is stylized with a circular cutout. Below the letters, the tagline 'Think circular' is written in a smaller, white, sans-serif font. The entire logo and tagline are centered within a blue rectangular background, which is itself centered on a white background.

ARE

Think circular

パーパス 「この手で守る自然と資源」

- 貴金属リサイクル国内No1 グローバル展開
- 産業廃棄物処理のリーディングカンパニー
- 株主還元を最重視

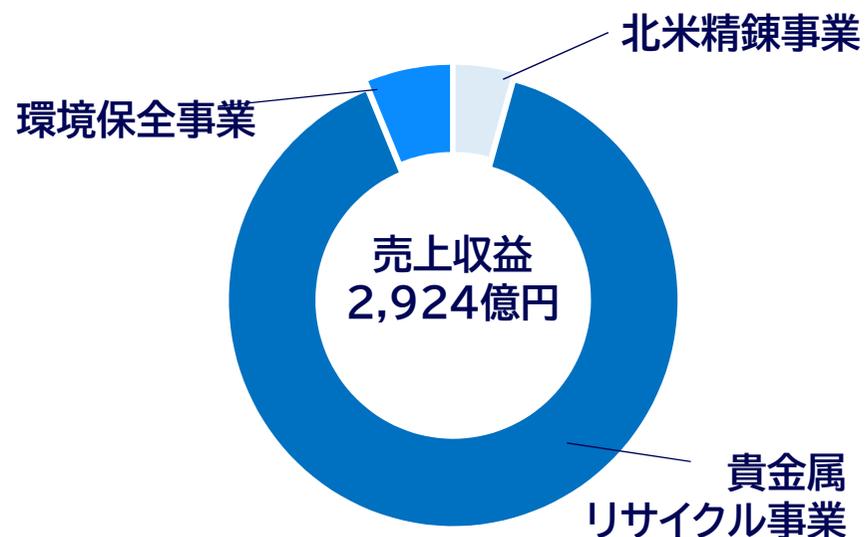
05 基本情報



創業	1952年7月
事業所数	全44拠点
	(国内34拠点・海外10拠点)
従業員数	1,467名
売上収益	2,924億円
営業利益	193億円
資本金	78億円

2023年3月末又は2023年3月期

事業内容	貴金属事業
	環境保全事業
グループ企業	アサヒプリテック
	アサヒメタルファイン
	アサヒリファイニング
	ジャパンウェイスト



*2023年3月期実績

- 貴金属リサイクル(日本・アジア)
→様々な分野の貴金属含有スクラップをリサイクルし地金化
- 北米精錬(アメリカ・カナダ)
→主に鉱山由来の金・銀の精錬/精錬を土台とした多様な製品加工、金融サービス等

貴金属リサイクル事業(日本・アジア)



北米精錬事業(北米)



- 主に難処理物を対象とした無害化等適正処理および再資源化を実施
- 自社適正処理、コンサルティング、DXソリューションと3世代事業コンセプトでの事業活動

環境保全事業(日本)



3世代コンセプト

① 自社適正処理



処理施設
11拠点

② コンサルティング



コンサルティング営業人員
約150人

③ DXソリューション



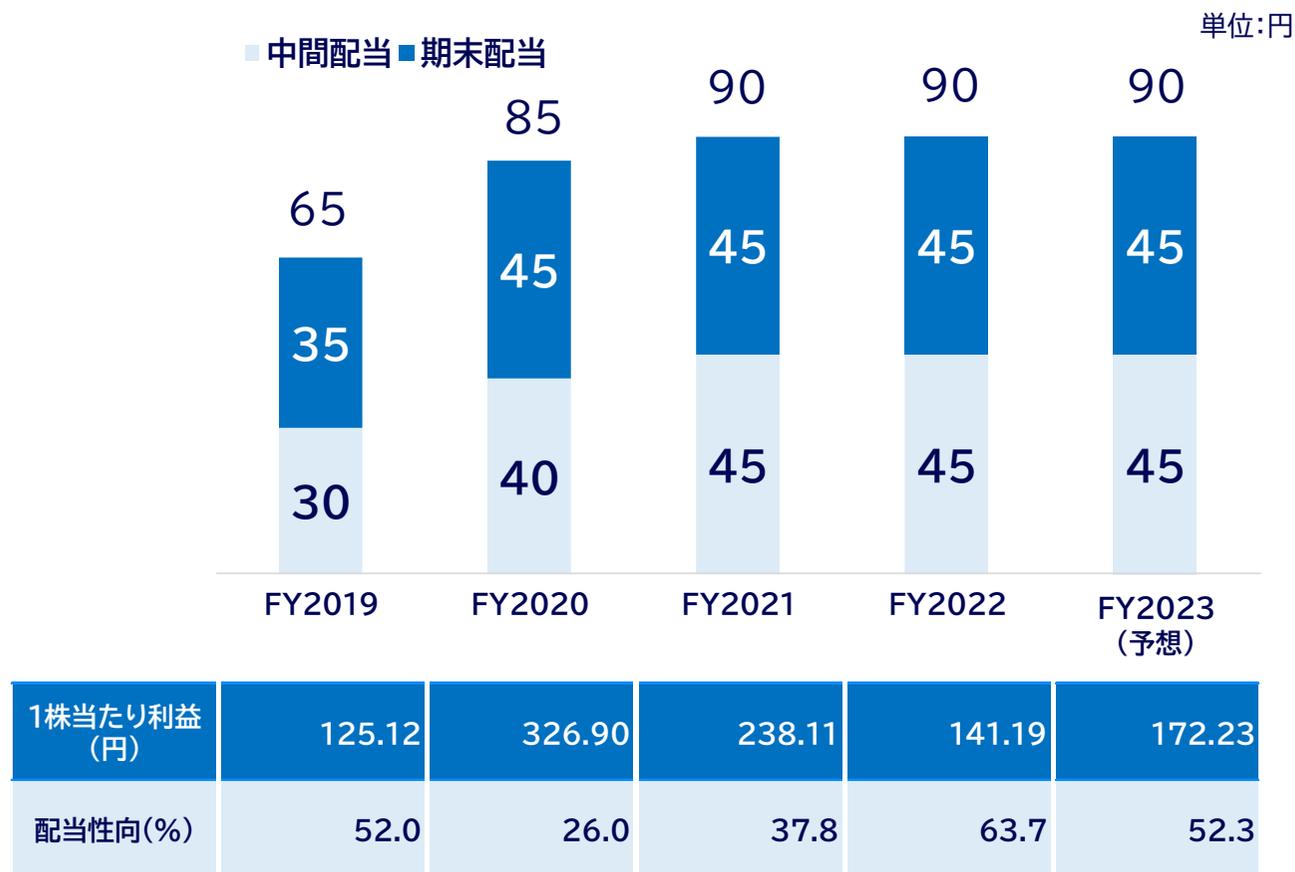
SaaS事業の開始
2022年6月

- 過去10年間:売上収益は3倍、営業利益は2倍に増加
- 2022年度 :坂東工場新設の効果で宝飾分野からの回収が増加し増収
ロジウム価格急落や関係会社株式売却損により減益

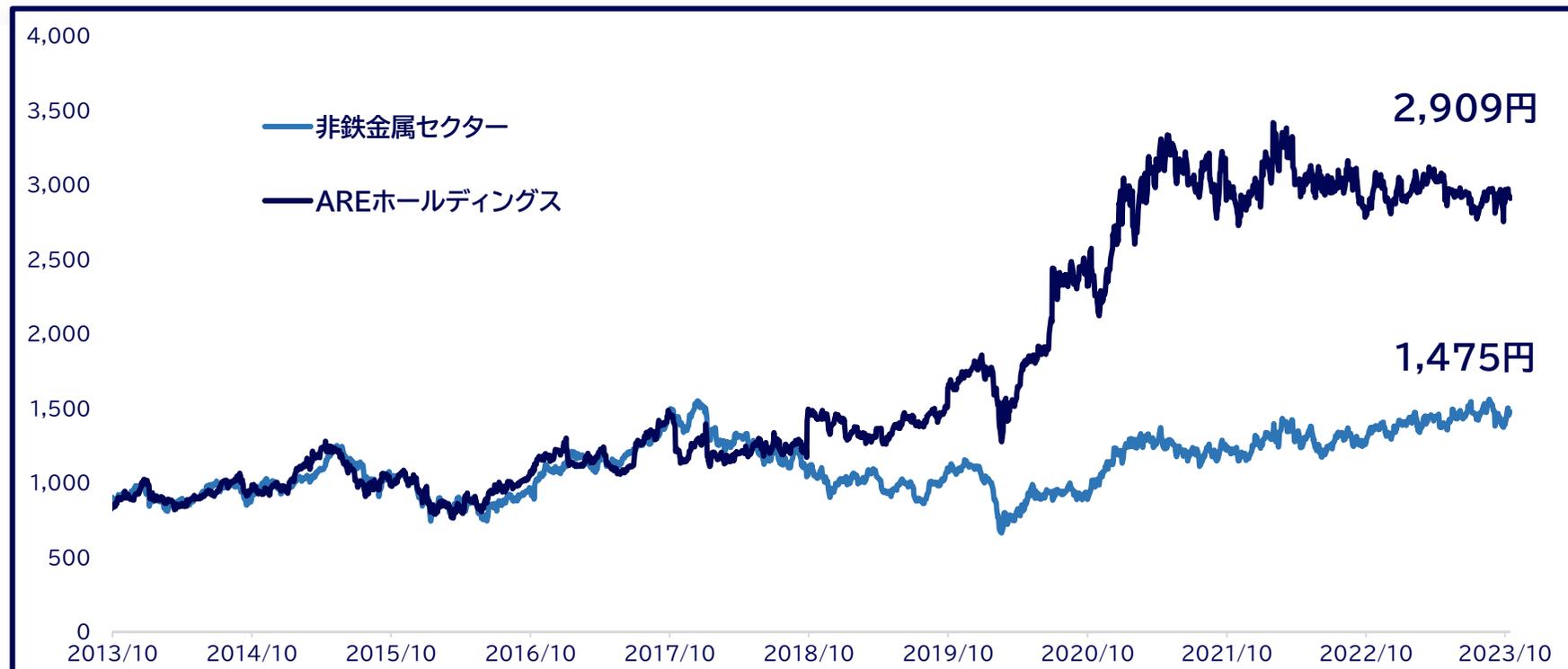
単位:億円



基本方針:成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保の充実を図りながら、
配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を
継続する



※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2020年度までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示



予想配当利回り(2023年11月13日時点): **4.8%**

役員報酬にトータルシェアホルダーリターン連動の株式報酬導入

- JPX日経インデックス400に4年連続選定
- GPIF活用の国内株式ESGインデックス6本の内4本の構成銘柄に選定
- 高配当銘柄としても評価

インデックス(含むESG関連)への採用



JPX-NIKKEI 400



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**



Morningstar® 日本株式ジェンダー・ダイバーシ
ティ・ティルト指数(除くREIT)

2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

日経累進高配当株指数(愛称:しっかりインカム)

ディスクレイマー

AREホールディングスを MSCI インデックスに含めること、および MSCI のロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名を使用することは、MSCI またはその関連会社がAREホールディングスを後援、承認、または宣伝することを意味するものではありません。MSCI インデックスは MSCI の独占的財産です。MSCI ならびに MSCI インデックスの名称およびロゴは MSCI またはその関連会社の商標またはサービスマークです。

ESG 評価

MSCI
ESG RATINGS



CCC	B	BB	BBB	A	AA	AAA
-----	---	----	------------	---	----	-----



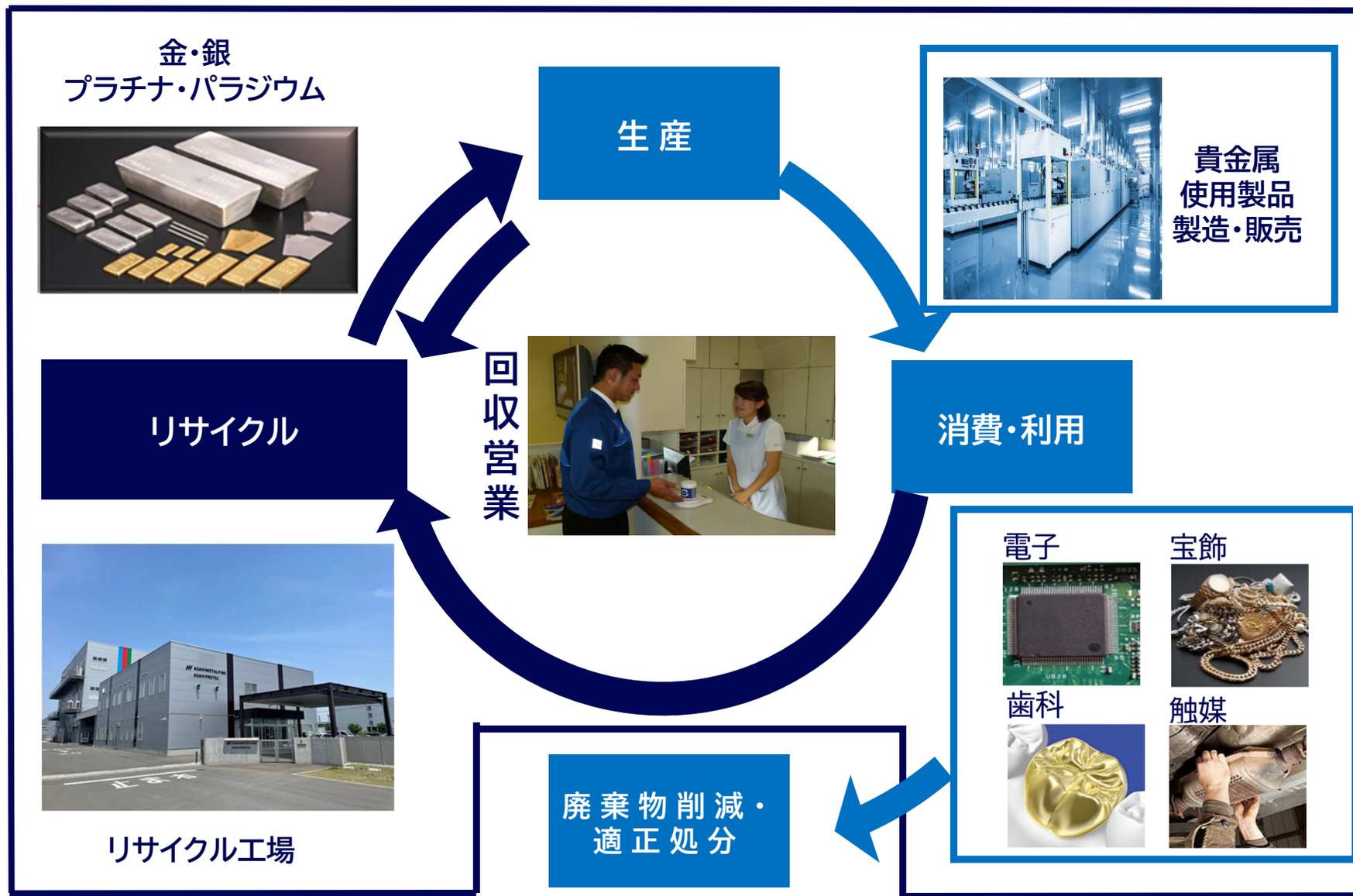
スコア
B

*2022年における外部評価に基づく

- I. 企業概要
- II. 貴金属事業**
- III. 環境保全事業
- IV. 成長戦略



※ご参考 2024年3月期第2四半期決算概要



世界水準の品質

当社の生産するリサイクル貴金属は、鉱山から新たに生産される貴金属と品質は同じ。LBMA/LPPMのグッドデリバリー認証も取得。



人・社会・環境にやさしい貴金属供給

トレーサビリティを確保し、社会(人権)、環境(CO2)に対する配慮を強化、国際認証で先行。



15 生産規模

金生産

1,144
トン

当社生産24.5トン

世界5位の
鉱山に相当

3,612
トン



■プライマリー
■セカンダリー

順位	鉱山名	生産規模
1	Muruntau	60.5トン
2	Gasberg	55.9トン
3	Carlin	48.9トン
4	Olimpiada	32.5トン
5	Boddington	24.8トン
6	Cortez	23.8トン
7	Kibali	23.3トン
8	Pueblo Vjejo	22.2トン
9	Lihir	21.8トン
10	Detour Lake	21.8トン

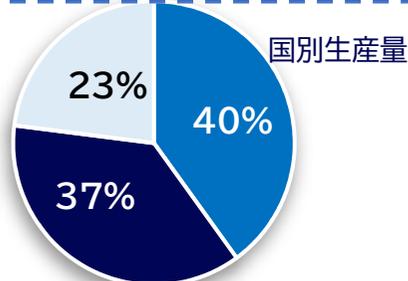
パラジウム生産

101トン

当社生産6.3トン

世界の
6%

204トン



■プライマリー ■セカンダリー ■ロシア ■南アフリカ ■その他

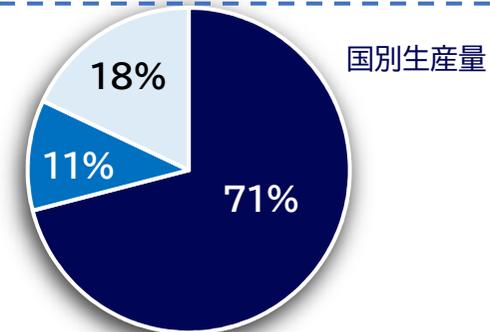
プラチナ生産

47トン

当社生産6.0トン

世界の
13%

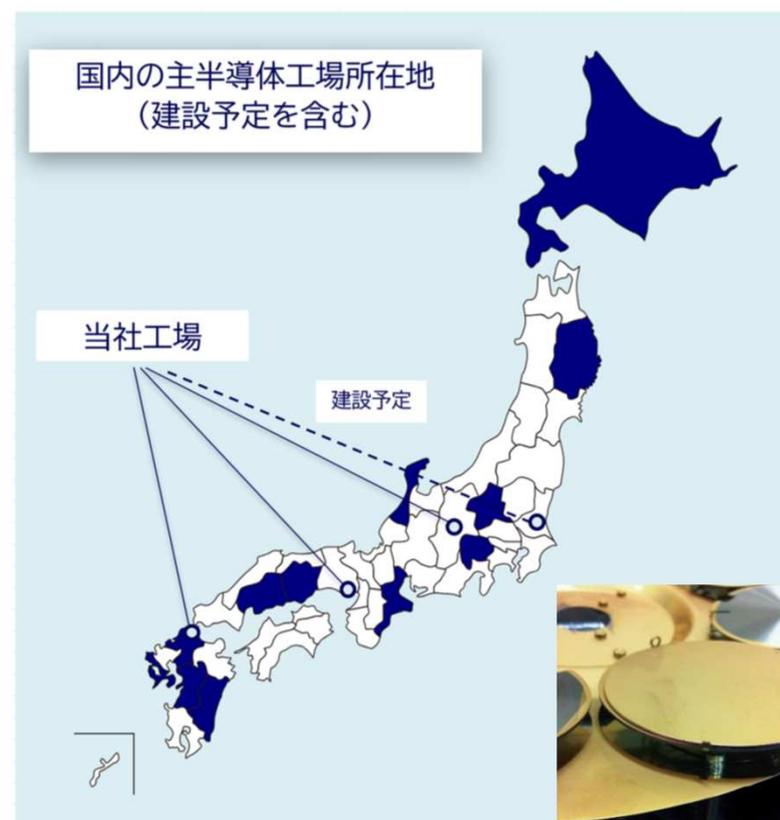
181トン



■プライマリー ■セカンダリー ■ロシア ■南アフリカ ■その他

- メーカーの生産工程から貴金属を回収
- 電子分野のサプライチェーンの安定に貢献

- 国内半導体再興に貢献できる表面処理及び精密洗浄領域の拡大
- 先端的電子産業の生産工程から原材料を回収
- 福岡、尼崎、長野の3拠点、2026年度に茨城に新工場
- ルテニウム、イリジウム等の回収を強化





ソルトレイクシティ・マイアミ・トロントの3拠点

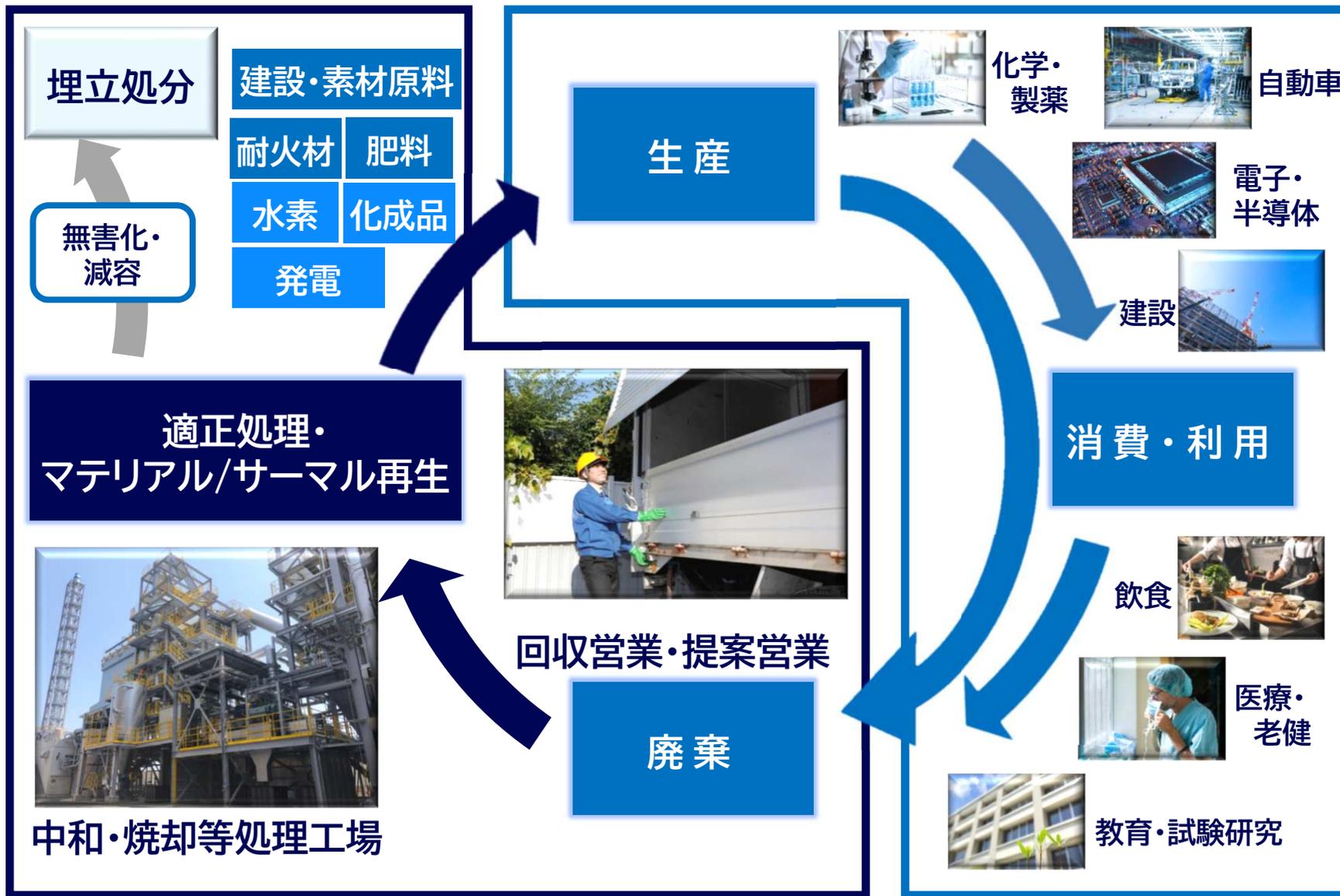


(金400ton/年・銀2,000ton/年)

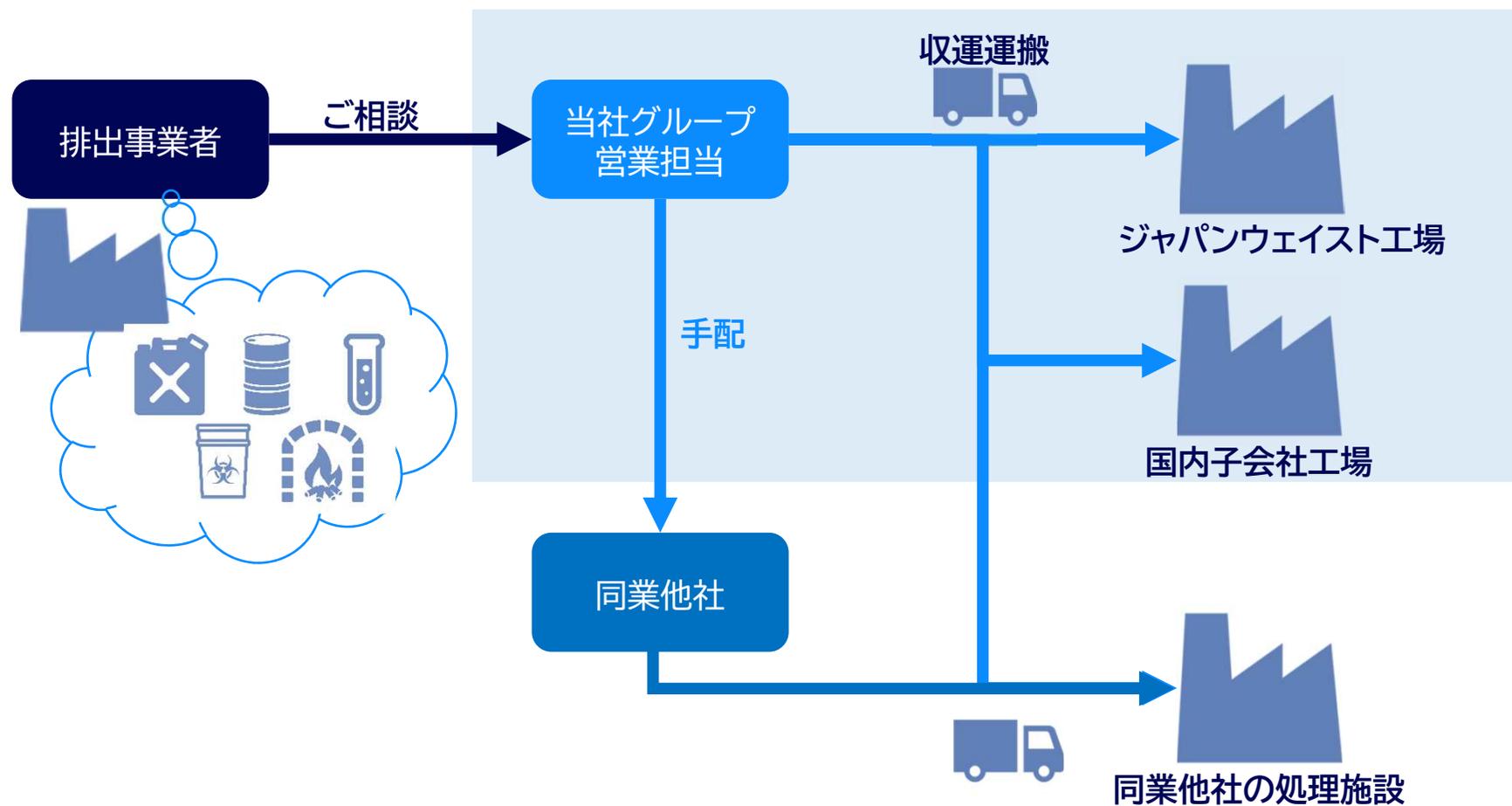
- I. 企業概要
- II. 貴金属事業
- III. 環境保全事業**
- IV. 成長戦略



※ご参考 2024年3月期第1四半期決算概要



- 北海道から沖縄に至る全国的な営業拠点網
- 同業他社との提携も活用したコンサルティングソリューションの提供



- 47都道府県・9政令市・中核市で許可取得
- 発電と水素製造による最先端のエネルギーリカバリー



2025年完成予定「横浜焼却炉」

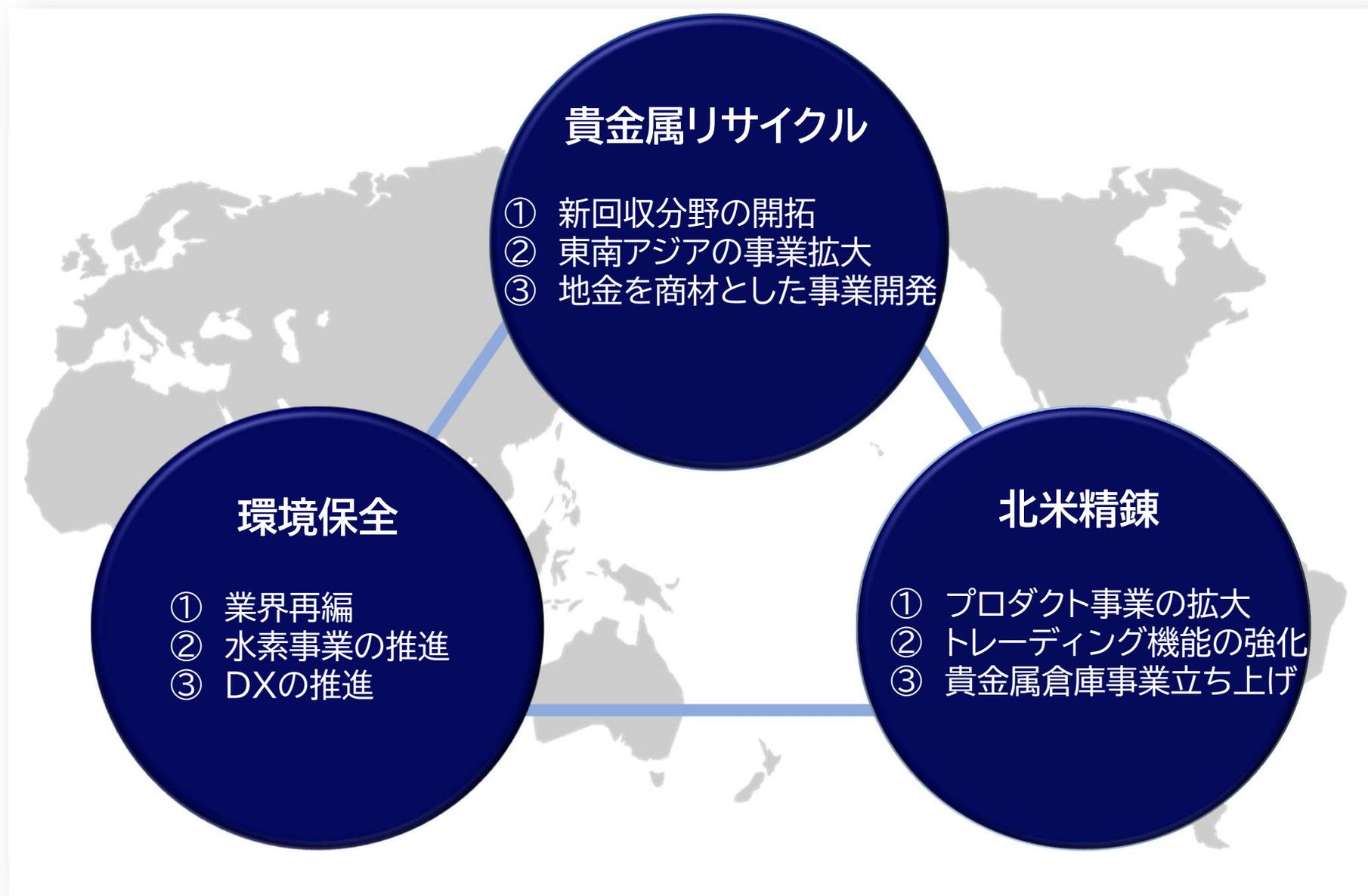


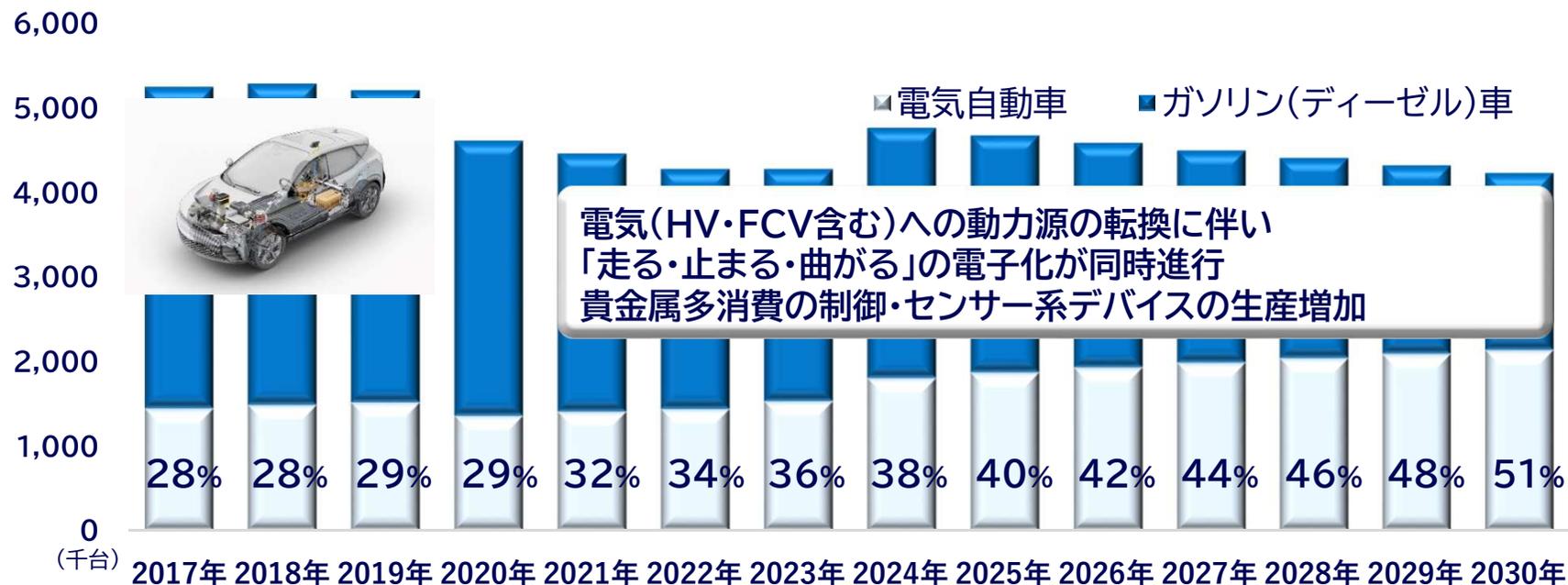
- 大規模サーマルリサイクル
- 最先端の水素製造プロセス

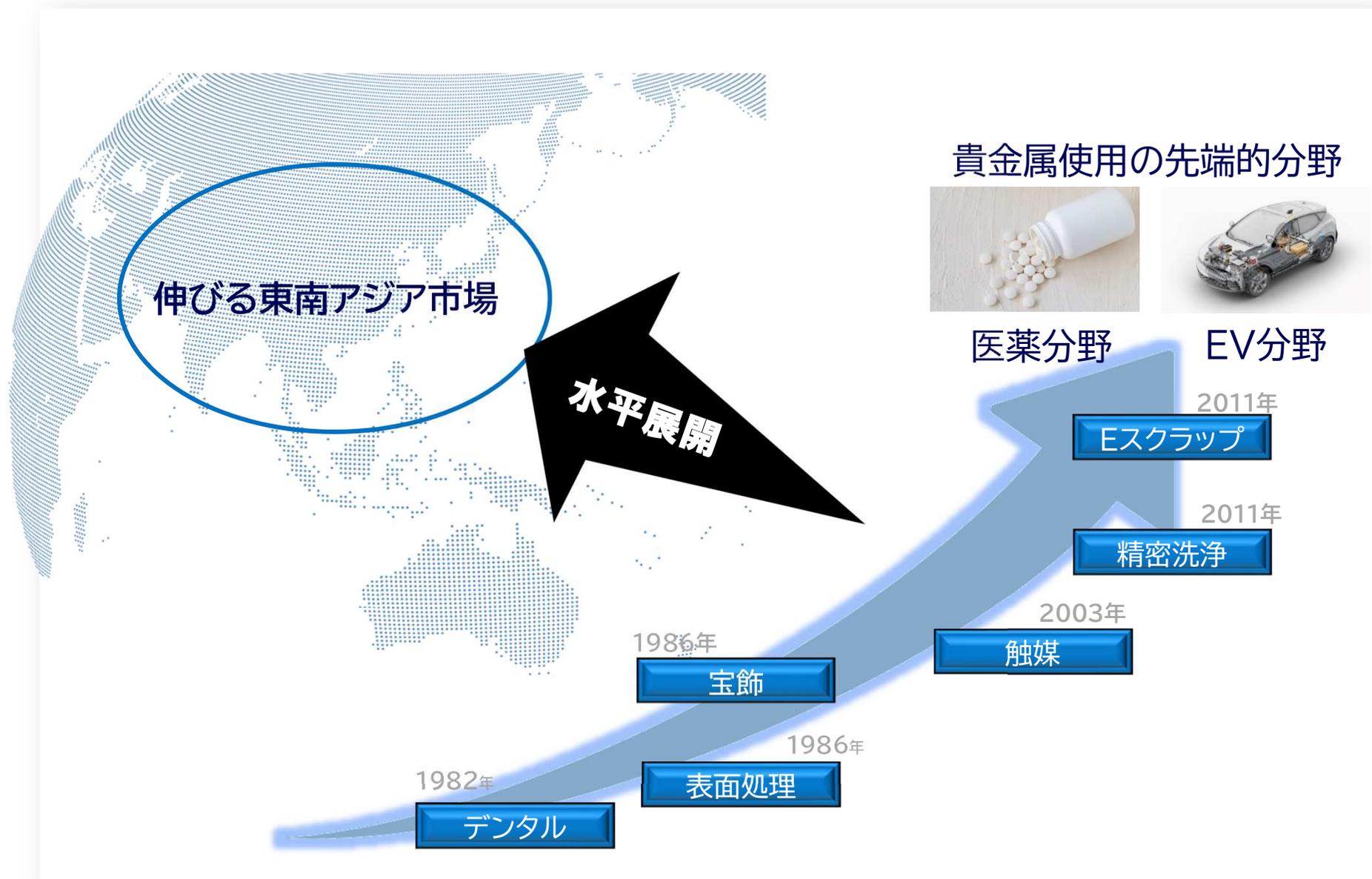
- I. 企業概要
- II. 貴金属事業
- III. 環境保全事業
- IV. 成長戦略**



※ご参考 2024年3月期第2四半期決算概要







- 世界的宝飾ブランドは社会(人権)、環境(CO2)に対する配慮を強化
- 当社のリサイクル金をグリーンゴールドとして高く評価
- この流れは、宝飾以外の産業分野、金以外の貴金属にも波及

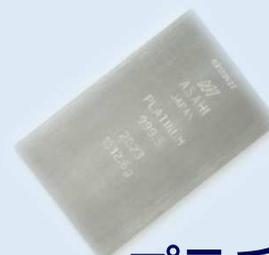
増加する当社リサイクル貴金属の生産量（2022年度実績）



金
24.5 t



前年比
+8.2 t



プラチナ
6.0 t



前年比
+1.0 t

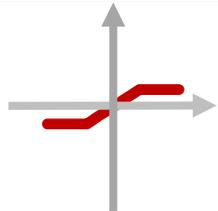
「調達先は貴金属リサイクル、責任ある鉱山のみ」
(ティファニー)

「全サプライチェーンを2030年までに脱炭素化」
(アップル)

① プロダクト事業の拡大



② トレーディング機能の強化

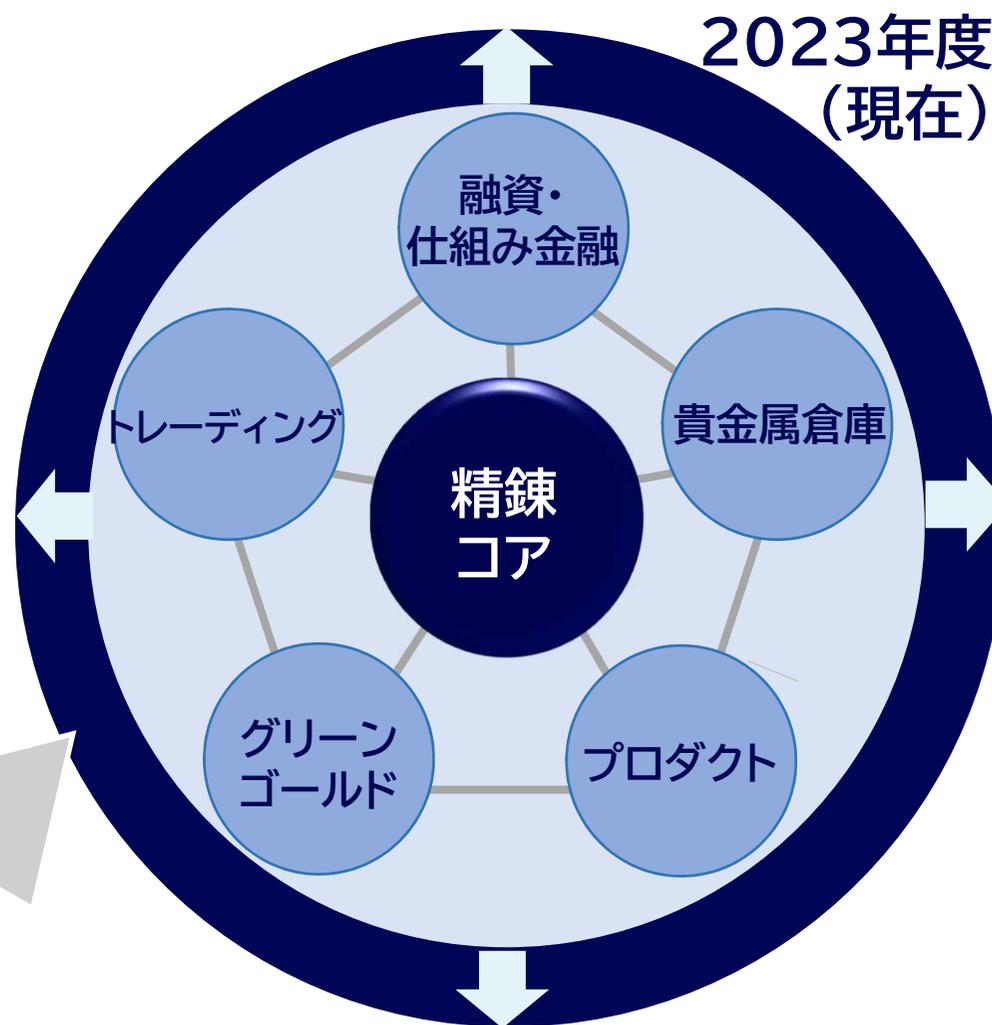


③ 貴金属倉庫事業立ち上げ

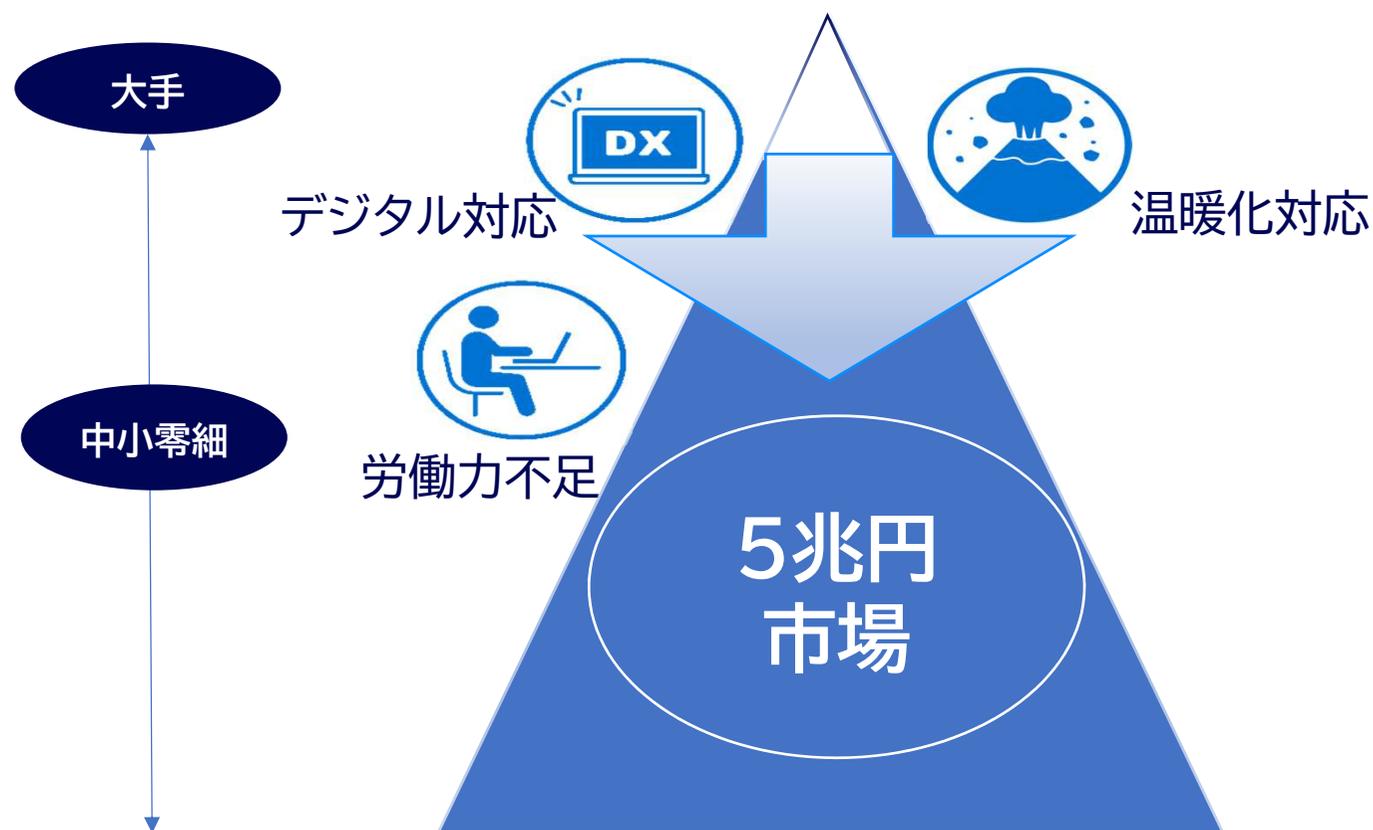


2015年度
(買収時)

精錬
事業



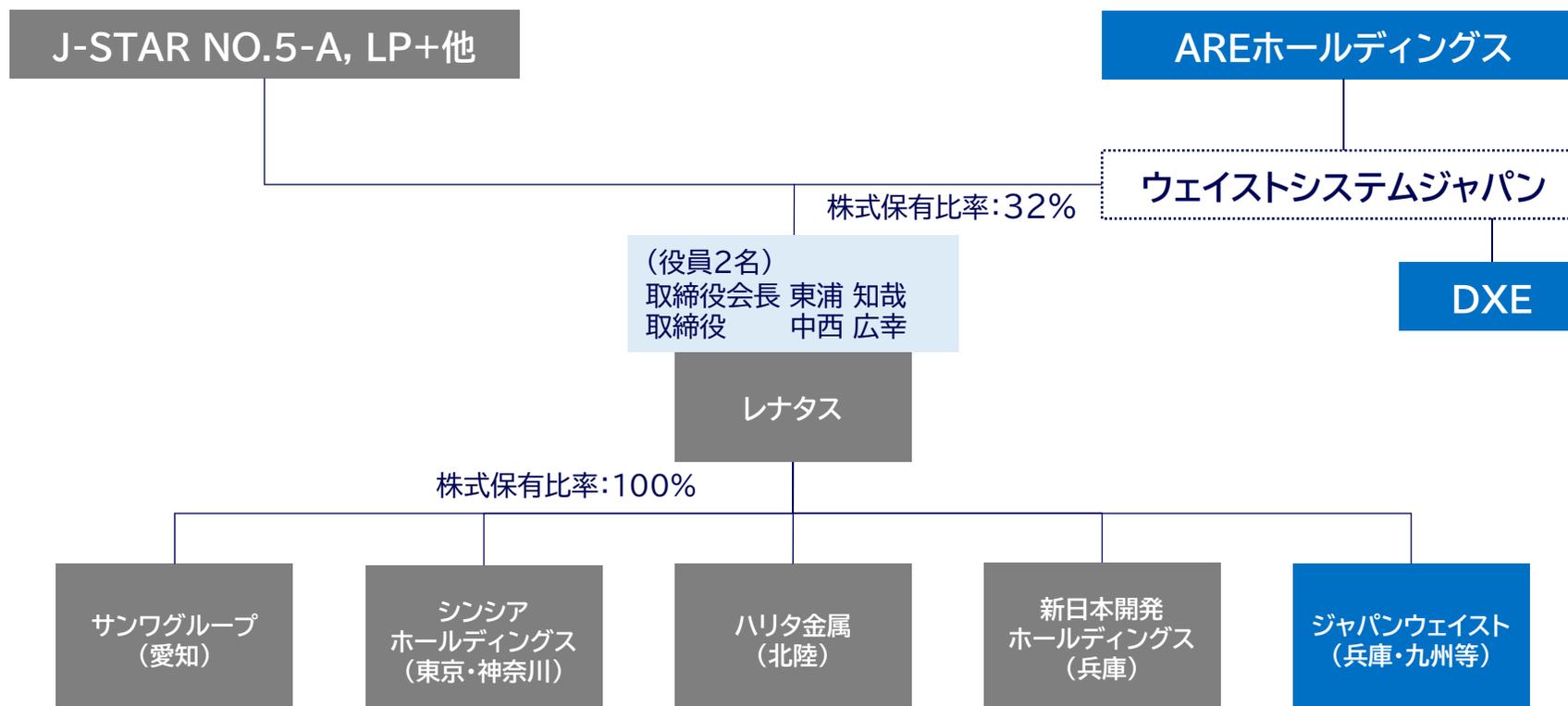
- 市場規模は約5兆円、約10万の事業者は中小零細規模主体
- カーボンニュートラルやデジタル化への対応力に格差、将来的に再編も



出典：環境省「令和3年度環境産業の市場規模推計等委託業務 環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書」

- 産業廃棄物処理の企業連合設立に基本合意
- 当社はレナタス株式の32%を保有予定
- レナタスとして上場を目指す

(株式交換後のストラクチャー)



- 株式交換を通じて経営規模が業界トップレベルに
- ジャパンウエストの全国規模の営業網と、各社の首都圏、中部、北陸圏、近畿圏の処理施設とのシナジーの発揮することで、企業価値の向上を目指す

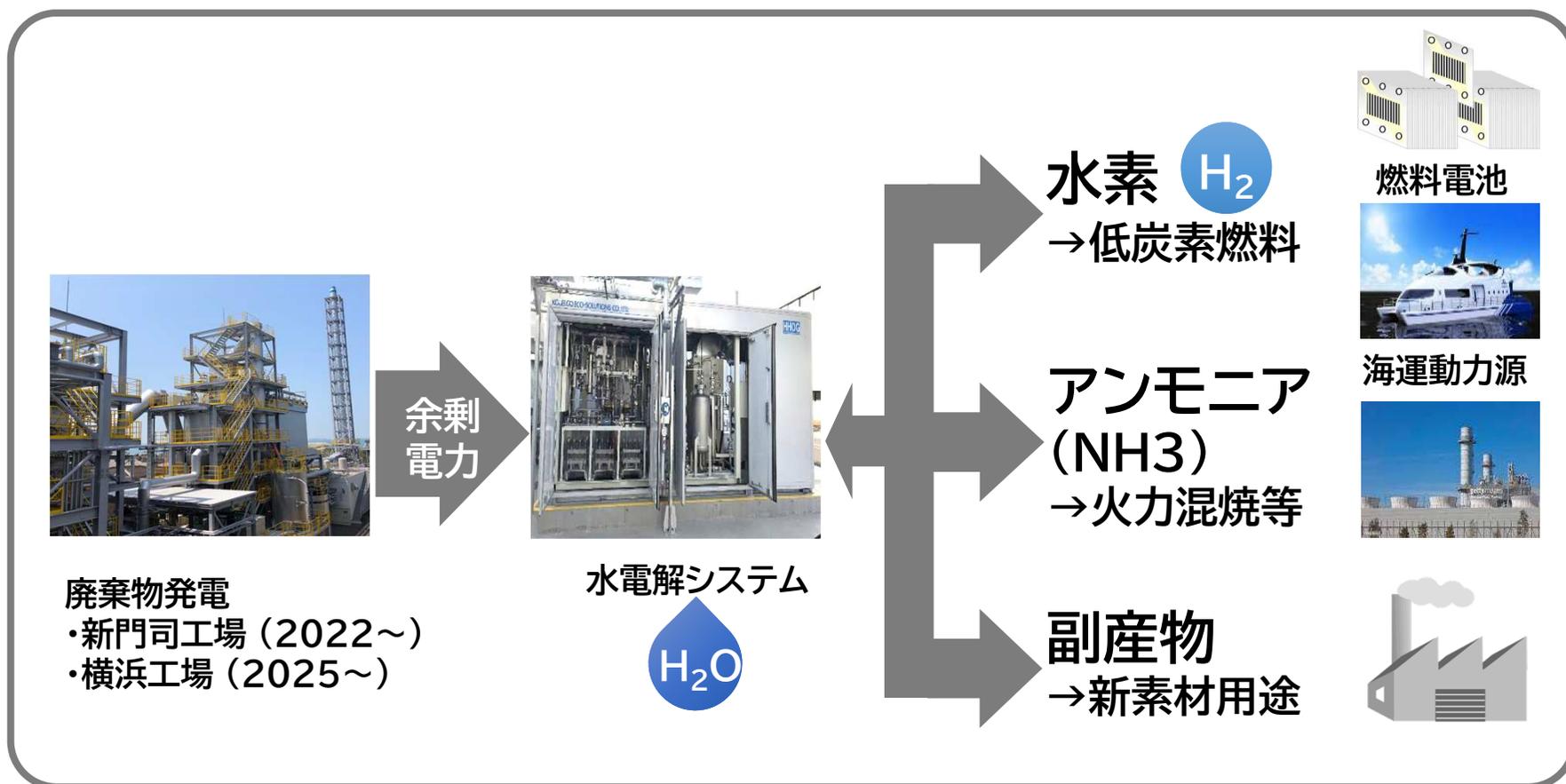
産業廃棄物処理企業	売上高 (億円)
A社	677
レナタス	544
B社	340
C社	188
ジャパンウエスト	182
D社	164
E社	78
F社	48



レナタスの決算数値はグループ企業の直前期決算数値(決算数値が確定していないものは、直前々期の数値)と当社環境保全事業セグメント数値の単純合算(2023年3月期決算数値前提)

B社及びD社は2023年2月期、F社は2022年12月期決算数値よりそれぞれ抜粋
上記以外は2023年3月期決算数値より抜粋

- 廃棄物発電時の余剰電力を活用し水素等を製造、実証から商用へ
- CO₂排出削減／地域連携によるレジリエンス強化



- 産業廃棄物業界のDXを進めるために、SaaSサービスを2022年6月に開始
- 排出業者から処理業者まで一気通貫のデジタルプラットフォームを目指す



DXE Station

**マニフェストから
売上請求まで一連の
産廃業務を劇的に効率化**

DXE Stationは、産業廃棄物の
排出から処理まで、一連の業務プロセスを
デジタル管理するシステムです。

- I. 企業概要
- II. 貴金属事業
- III. 環境保全事業
- IV. 成長戦略

※ご参考 2024年3月期第2四半期決算概要

概要

売上収益

1,519億円（前年同期比+192億円）

営業利益

70億円（前年同期比 △45億円）

ロジウムの影響

- 1Qに比べると2Qのロジウム価格は安定推移、しかしながらロジウム価格は前年9月末比で7割下落、前年比26億円の減益要因
- ロジウムの価格変動リスク低減のための先渡し契約と代替ヘッジは計画通り進捗

その他の要因

- パラジウム価格は前年9月末比4割下落
- 触媒・エレクトロニクス分野の取引先の在庫調整が想定より長引く
- 分社化に伴う会計処理の変更
- 北米事業は好調に推移

通期業績予想について

金の販売量及び販売価格が当初予想比上回っているため売上収益を修正

ジャパンウェスト

産業廃棄物業界の優良企業の持ち株会社であるレナタス社と株式交換を基本合意

単位: 億円

	FY2022 2Q	FY2023 2Q		FY2023	
	実績	実績	前期比 増減	修正予想	前期比 増減
売上収益	1,327	1,519	192	2,900	△24
営業利益	115	70	△45	190	△3
営業利益率	8.7%	4.6%	△4.1%	6.6%	△0.1%
税引前利益	102	72	△30	185	24
当期利益※1	73	53	△20	132	23
設備投資	21	29	9	124	75
減価償却費	16	18	2	31	△2

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

貴金属リサイクル事業(国内アジア)

FY2023 2Q

宝飾分野から回収が増加し金の販売量が増加、金の価格も上昇。一方で、ロジウム価格やパラジウム価格の下落や触媒及びエレクトロニクス分野の取引先の在庫調整の影響を受け回収量が減少。

➡増収・減益

北米精錬事業

FY2023 2Q

精錬手数料、トレーディングや前渡し収益が増加。

➡増収・増益

(単位: 億円)

貴金属	FY2022 2Q	FY2023 2Q		FY2023	
	実績※	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	1,239	1,439	200	2,720	△ 22
営業利益	105	61	△ 44	167	△ 31
利益率	8.5%	4.2%	△ 4.3%	6.1%	△ 1.1%

※FY2023からセグメント会計基準の変更に伴い、FY2022実績は遡及処理しております。

環境保全事業

FY2023 2Q

施設の稼働率は高水準であったが、コロナ関連廃棄物の減少による医療系廃棄物の単価下落、横浜工場の新焼却炉建設に伴う事業転換の影響を受ける。

→減収・減益

(単位:億円)

環境	FY2022 2Q	FY2023 2Q		FY2023	
	実績※	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	88	80	△ 8	180	△ 2
営業利益	17	11	△ 6	23	△ 15
利益率	19.5%	13.7%	△ 5.8%	12.8%	△ 8.3%

※FY2023からセグメント会計基準の変更に伴い、FY2022実績は遡及処理しております。



ご清聴ありがとうございました

(お問い合わせ先)

企画部 irinfo@are-holdings.com